

「神代良明 一硝子の外側一」

- 1968年 千葉県生まれ
- 1994年 東京理科大学大学院理工学研究科建築計画専攻修了
- 2000年 株式会社現代計画研究所退社、ガラス作家を志す
- 2003年 東京ガラス工芸研究所研究科修了
- 2004年 国際ガラス展・金沢 2004 大賞
個展（ギャラリーES・東京）
- 2005年 個展（ギャラリーゆこもり・長野）
洞爺村国際彫刻ビエンナーレ 2005 入選
- 2006年 千葉市芸術文化新人賞
金沢卯辰山工芸工房ガラス工房技術研修者修了

高校は文系コースだったが、数世紀にわたって建設の続く大聖堂というものがこの世にあることを知り、志望を変えて建築学科に進む。

設計事務所での6年間の勤務中、休暇で沖縄に遊び、吹きガラス工房を見学、一瞬で器の形が作られる工程を見て、再び志望を変える。

金沢では陶芸の炭窯焼成に立会い、真っ赤になった土がへたる姿に「これもガラスだ！」とひとり興奮する。

以後「どこからがガラスで、どこまでがガラスなのか？」などと考えながら現在に至る。振り返れば、これまで「なるようになること」の確からしさに日々の居場所を求めてきた。そして今、自分の制作は「する」ことと「なる」ことの関わりを見つめるための、ひとつの方策だと考えている。

2006年4月